

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/小児看護学】

科目名		ナンバリング	区分（必修・選択）	単位数	履修年次	開講学期等
小児看護学概論			必修	1	2	前期
担当教員		研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
東福寺 愛実		401	narumi.tofukuji	授業終了後に質問等受付		
授業の目的・概要		小児看護の対象者である子どもの成長発達上の特徴及び小児看護の基本となる理念、子どもの人権、現代の子どもと家族の概況や倫理的観点から小児看護の役割と課題について学ぶ。各期の子どもの成長・発達及び栄養の特徴から健康増進のための家族を含めた看護を学ぶ。小児と家族の諸統計から小児の健康問題の動向を知るとともに、小児に関連する保健医療福祉のシステムについて理解する。小児看護に関する法律・施策について学ぶ。				
授業形式・方法		☒ 対面授業 ☐ 遠隔授業(双方向型) ☐ 遠隔授業(自主学習)	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習 ☐ 実技	☒ PBL ☐ グループワーク ☐ その他 (	☐ 反転授業 ☐ プレゼンテーション ☐ ディスカッション・ディベート ☐ 実習・フィールドワーク	
学習上の助言		子どもの身体および心理・社会的発達に関する理論、子ども白書や、子どもに関係する日常の報道情報から子どもの成長発達や社会性に影響を及ぼしていることがらについて関心を持って欲しい。小児の成長発達・健康と現代の子どもと家族への理解を深めて欲しい。				
教科書		系統的看護学講座Ⅰ 小児看護学概論・小児臨床看護総論 /著:奈良間美保 他 /医学書院 /2023				
参考書		ナーシング・グラフィカ・小児の発達と看護 /著:中野綾美 /メディカ出版 /2023				
外部教材		授業で使用するときにお知らせします。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	小児看護に必要な概念と子どもの権利について説明できる。			NS(1)(5)		
②	小児看護の変遷について国内外の社会的背景に関連させた説明ができる。			NS(1)(5)		
③	子どもの成長発達に関する理論と各期の特徴について説明できる。			NS(1)		
④	小児期の成長発達段階の特徴をふまえた自分なりの成長発達表を作成する。			NS(2)(4)		
⑤	小児看護に関する法律・施策について説明できる			NS(1)(3)		
⑥	小児を取り巻く環境・社会システムと現代の小児看護の理念・役割について説明できる。			NS(2)(4)		
授業計画						
回	学習内容等		授業方法	学習課題・学習時間（時間）		
1	授業ガイダンス、小児看護の理念と目標、小児看護の対象と変遷、子どもの権利と尊厳、小児保健統計を理解する。		講義	予習：教科書の第1章を読む。 復習：今日の授業で学んだ内容を整理しまとめる。		2
2	小児の成長発達の原則と影響因子、形態的成長・機能的発達・心理社会的発達の評価、看護に必要な発達理論について理解する。		講義	予習：教科書の第2章を読み、講義を聞く準備をする。 復習：今日の授業で学んだ内容を整理しまとめる。		4
3	新生児・乳児期の成長発達の特徴と健康増進のための子どもと家族への看護について理解する。		講義	予習：教科書の第3章を読み、講義を聞く準備をする。 課題：発達表に乳児期の成長発達の特徴を整理・記入しまとめる。		4
4	幼児期の成長発達の特徴と健康増進のための子どもと家族への看護について理解する。		講義	予習：教科書の第4章を読み、講義を聞く準備をする。 課題：発達表に幼児期の成長発達の特徴を整理・記入しまとめる。		4
5	学童期の成長発達の特徴と健康増進のための子どもと家族への看護について理解する。		講義	予習：教科書の第4章を読み、講義を聞く準備をする。 課題：発達表に幼児期の成長発達の特徴を整理・記入しまとめる。		4
6	思春期・青年期の成長発達の特徴と健康増進のための子どもと家族への看護について理解する。		講義	予習：教科書の第5章を読み、講義を聞く準備をする。 課題：発達表に学童期の成長発達の特徴を整理・記入しまとめる。		4

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/小児看護学】

7	家族の特徴を理解し、子どもと家族を取り巻く環境、現代家族の特徴について理解する。	講義	予習：教科書の第6章を読み、講義を聞く準備をする。 復習：今日の授業で学んだ内容を整理しまとめる。	4			
8	小児期の健康に関する社会制度、母子保健施策について理解する。	講義	予習：教科書の第7章を読み、講義を聞く準備をする。 復習：今日の授業で学んだ内容を整理しまとめる。	4			
試	定期試験：達成度評価、評価のポイント参照						
達成度評価							
総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	70	0	0	0	0	70
	思考・推論・創造する力	30	0	0	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント					フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	定期試験期間に、試験を実施する。小児看護学の理念、発達理論、各成長発達段階の特徴、社会制度と施策、子どもの権利と尊厳など授業で学んだ内容の理解度を評価する。			試験の採点后、メールにて講評・解説の周知を行う。	
	②						
	③	✓					
	④						
	⑤	✓					
	⑥	✓					
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員		なし					
教 員 の 実 務 経 験		担当する看護教員は、看護師として実務経験が5年以上有したものが担当する。					
実践的授業の内容		この科目は、担当教員が臨床看護実践で得た経験をもとに、小児看護援助において子どもの理解をするために必要な基本的な知識を得られるように授業を進めます。					
そ の 他		・学習状況により、学習内容の順番が変更になる場合がある。その際は事前に説明をする。 ・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスを変更する可能性がある。					